

『哲学の探求』第33号刊行にあたって

この『哲学の探求』第33号は、2005年7月30日・31日の二日にわたり東京都八王子市の大学セミナー・ハウスで開催された、第33回哲学若手研究者フォーラムでのテーマレクチャーと個人研究発表にもとづくものです。

哲学若手研究者フォーラム（通称「若手フォーラム」、旧「全国若手哲学研究者ゼミナール」）とは、年一回開催される合宿形式の研究発表集会です。この集会の参加者は、主として大学院生およびオーバードクターであり、またその目的は、大学、地域、専門性の違いを越えて自由に議論する場を参加者に提供することです。

若手フォーラムは、どこからも特別な財政的援助を受けず、すべてフォーラム参加者からの参加費だけで運営されています。そして、その運営は、フォーラム参加者の承認を受けた数名の世話人によっておこなわれています。

2005年度の若手フォーラムには、関東圏の大学からだけでなく、東北、関西、中部、そして九州にまでおよぶ幅広い地域の大学から多くの参加者を迎えることができました。

初日におこなわれたテーマレクチャーでは、伊勢田哲治先生（名古屋大学）、一ノ瀬正樹先生（東京大学）、金森修先生（東京大学）の三氏をお招きし、「認識論はどこへゆく？ 2」というテーマで発表・議論をしていただきました。さらに先生方には懇親会にも出席していただき、夜遅くまで議論に応じていただきました。

また、両日にわたっておこなわれた個人研究発表では、多彩な分野からの12の発表がおこなわれ、発表が終わったあとの休憩時間にも活発な議論が続けられていました。そして、議論のあいまには、参加者たちが旧交をあたためたり、新たな友情をはぐくんだりしている姿が見られました。

2005年度のフォーラムがこのように活気のあるものになったのも、レクチャーの先生方をはじめ、個人研究発表者の方々、そして参加して下さった皆さまのおかげです。2005年度若手フォーラム世話人を代表して、心からお礼を申し上げます。

2006年3月12日には、南山大学において、新しい試みとして「冬季セッション」というイベントも開催されました。その内容は、竹田純郎先生（金城学院大学）と横山輝雄先生（南山大学）をお招きしての「生命の哲学—その歴史と課題」というテーマでのシンポジウム、そして個人研究発表でした。

2006年度の若手フォーラムじたいは、7月22日・23日の両日にわたり東京都代々木の「国立オリンピック記念青少年総合センター」で開催される運びとなっています。今年度のテーマレクチャーでは、「大陸系哲学の現在」というテーマのもとで、鈴木泉先生（神戸大学）、村上靖彦先生（日本大学）、古荘真敬先生（山口大学）の三氏にお話しいただく予定です。

本誌には、2005年度のレクチャーと個人研究発表者による論文のほかに、冬季セッションのシンポジウムおよび2006年度のテーマレクチャーの講演要旨も掲載しております。どうぞご覧下さい。

皆さまの若手フォーラムへの参加をお待ちしています。若手フォーラムの活動の詳細については、フォーラムのホームページ (<http://www.wakate-forum.org/>) を参照していただくか、巻末にある今年度の世話人までお気軽にお問い合わせ下さい。

2006年3月17日

2005年度 哲学若手研究者フォーラム世話人代表
佐藤 康之